

1 研究主題

「自己肯定感を高める授業改善」

～「主体的・対話的で深い学び」を通じた「私だってやればできる」の実現～

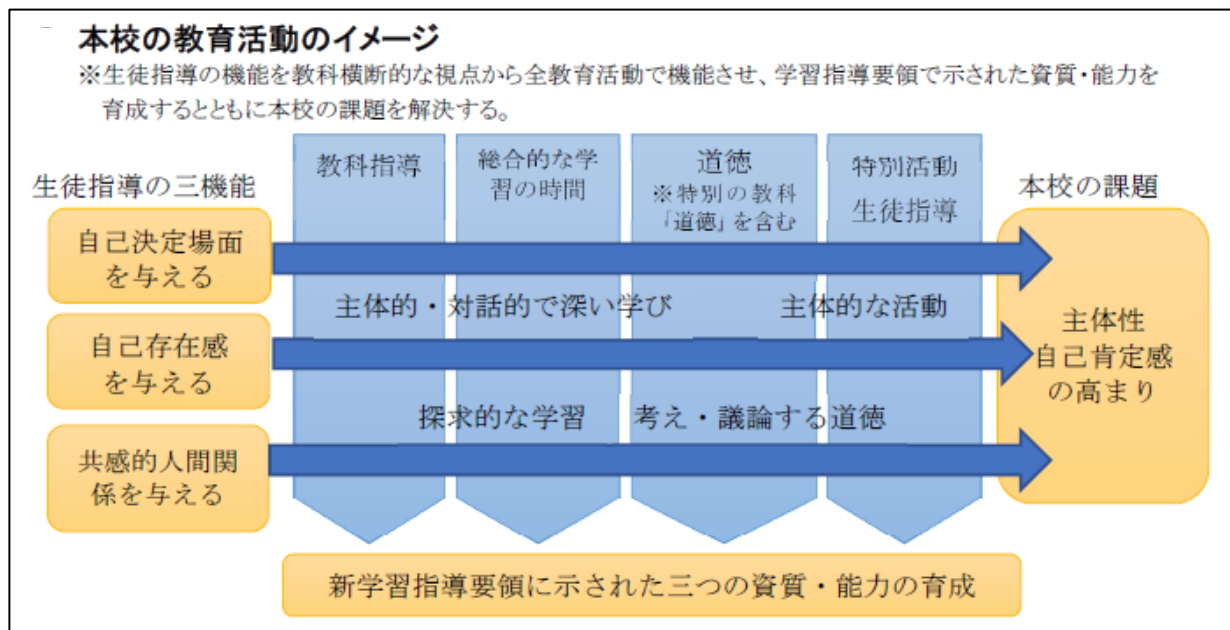
2 主題設定の理由

- 新型コロナウイルス感染症の蔓延等社会の変化が加速度を増している昨今、「予測できない変化に主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となるための力」を育成することの重要性が再確認されている。
- それに加え、「令和の日本型学校教育」が提起され、「個別最適な学び」「協働的な学び」「ICT活用」等をキーワードにした新時代の学びの推進が求められている。
- 一方、本校の生徒は、学習活動や日常生活に対する意欲や主体性の基盤となる自己肯定感が低いことがアンケート調査で明らかとなり、改善すべき重要課題の1つとなっている。
- そこで、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善や自己肯定感を高める工夫を授業に導入することを通し、何事にも意欲的で主体的に活動する生徒を育成しようと考え、主題を設定した。

3 研究仮説と研究内容

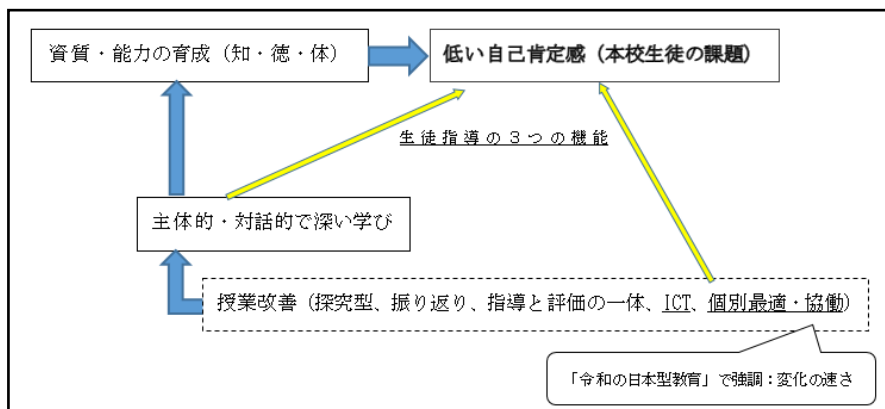
(1) 研究仮説

生徒指導の三機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」）を意識して、「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業改善に取り組むことで、自己肯定感の高い生徒が育つだろう。



(2) 研究内容

- ① 生徒指導の三機能（「自己決定の場を与える」「自己存在感を与える」「共感的人間関係を育成する」）を意識して、「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業改善に取り組むことで、自己肯定感の高い生徒が育つだろう。
- ② 生徒指導の三機能を生かすために授業展開や授業形態の工夫を行い、生徒の自己肯定感の向上を図る。



4 現状分析と考察

(1) 全国学力・学習状況調査における質問紙調査の分析

全国学力・学習状況調査の生徒質問紙における調査項目「自分には、よいところがあると思いますか」の結果を本校生徒の自己肯定感の指標とし、分析を行った。

① 自己肯定感の推移

- 平成 29 年度（H29）から令和 4 年度（R 4）までの直近の 5 年間の本校の中学校 3 年生の自己肯定感の変化を分析した。
- 肯定的な回答をした生徒の割合はH30 と R 4 では全道・全国と同程度の水準であった。（H30…本校：79.3、全道：78.2、全国：78.8、R4…本校：79.1、全道：77.4、全国：78.5）
- H29 と R 1 と R 3 は、肯定的な回答をした生徒の割合は全道・全国より低い水準であった。
H29…本校：68.4、全道：66.9、全国：70.7 R 1…本校：59.6、全道：73.4、全国：74.1
R 3…本校：66.0、全道：74.5、全国：76.2

表1 本校の全国学力・学習状況調査の調査項目「自分には、よいところがあると思いますか」に対する回答の割合

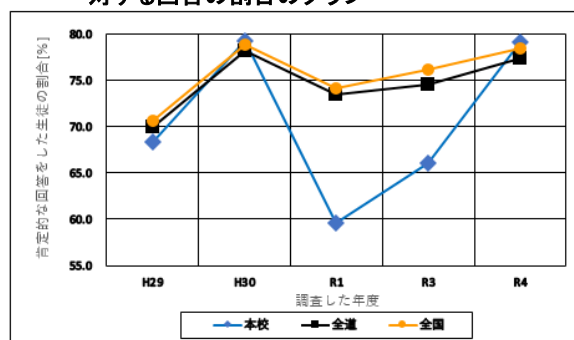
回答	H29					H30					R1				
	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2
① 本校	29.8	38.6	26.3	5.3	68.4	27.6	51.7	15.5	5.2	79.3	19.2	40.4	36.5	3.8	59.6
② 全道	29.2	40.7	20.6	9.4	69.9	34.4	43.8	15.7	6.1	78.2	29.7	43.7	19.1	7.6	73.4
③ 全国	28.2	42.5	20.5	8.6	70.7	33.7	45.1	15.2	6.0	78.8	29.0	45.1	18.6	7.3	74.1
④ 全道差	0.6	-2.1	5.7	-4.1	-1.5	-6.8	7.9	-0.2	-0.9	1.1	-10.5	-3.3	17.4	-3.8	-13.8
⑤ 全国差	1.6	-3.9	5.8	-3.3	-2.3	-6.1	6.6	0.3	-0.8	0.5	-9.8	-4.7	17.9	-3.5	-14.5

回答	R3					R4				
	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2
① 本校	21.3	44.7	23.4	10.6	66.0	41.9	37.2	16.3	4.7	79.1
② 全道	33.8	40.7	17.8	7.8	74.5	36.2	41.2	15.6	7.1	77.4
③ 全国	34.5	41.7	16.6	7.1	76.2	36.0	42.5	14.9	6.6	78.5
④ 全道差	-12.5	4.0	5.6	2.8	-8.5	5.7	-4.0	0.7	-2.4	1.7
⑤ 全国差	-13.2	3.0	6.8	3.5	-10.2	5.9	-5.3	1.4	-1.9	0.6

※表中の回答の数字は、「1:当てはまる 2:どちらかといえば、当てはまる 3:どちらかといえば、あてはまらない 4:あてはまらない」の選択肢を表している。

※表中の回答にある「1+2」は、回答項目 1 と 2 の生徒の割合の合計

図1 「自分には、よいところがあると思いますか」に対する回答の割合のグラフ



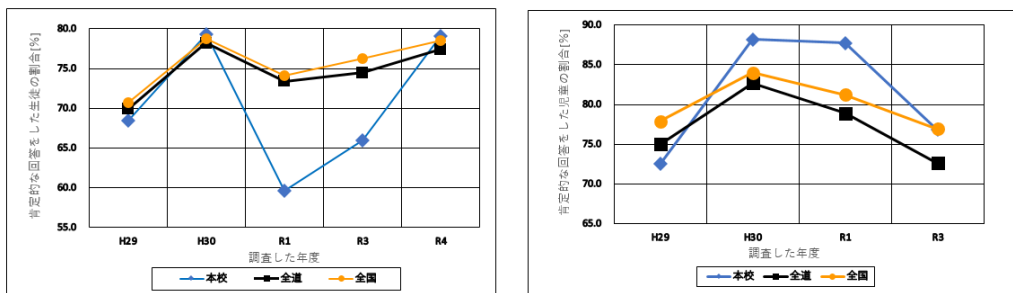
② 本校校区の蘭北小学校の自己肯定感

- H29 から R 3 までの蘭北小学校の児童の自己肯定感の変化を分析した。
- 蘭北小学校の自己肯定感は、全道・全国を大きく上回る年がある。
- 全道・全国を下回る年があるが、その差は小さい。

表2 蘭北小学校の全国学力・学習状況調査の調査項目「自分には、よいところがあると思いますか」に対する回答の割合

【小学校】	H29					H30					R1					R3				
	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2
① 本校	32.8	39.7	13.8	13.8	72.5	17.6	70.6	11.8	0.0	88.2	30.6	57.1	12.2	0.0	87.7	34.9	41.9	14.0	9.3	76.8
② 全道	36.0	39.0	16.6	8.5	75.0	38.7	44.0	12.5	4.6	82.7	35.6	43.3	14.9	6.1	78.9	31.9	40.7	18.3	9.1	72.6
③ 全国	38.6	39.3	14.9	7.0	77.9	41.2	42.8	11.6	4.3	84.0	38.8	42.4	13.4	5.3	81.2	36.2	40.7	15.5	7.5	76.9
④ 全道差	-3.2	0.7	-2.8	5.3	-2.5	-21.1	26.6	-0.7	-4.6	5.5	-5.0	13.8	-2.7	-6.1	8.8	3.0	1.2	-4.3	0.2	4.2
⑤ 全国差	-5.8	0.4	-1.1	6.8	-5.4	-23.6	27.8	0.2	-4.3	4.2	-8.2	14.7	-1.2	-5.3	6.5	-1.3	1.2	-1.5	1.8	-0.1

図2 本校の自己肯定感のグラフ(左)と蘭北小学校の自己肯定感のグラフ(右)



③ 自己肯定感の変化（同一集団における自己肯定感の変化）

- H29 から R 1 の本校校区である蘭北小学校 6 年生の自己肯定感が本校に入学し、中学校 3 年生になったときにどのように変化したかを分析した。
- 中学校 3 年次における自己肯定感について肯定的に回答した生徒の割合は、小学校 6 年次における割合に比べ、本校・全道・全国ともに減少している。
- しかし、本校生徒の自己肯定感の減少率は、全道・全国に比べて大きい。

R 1 …本校 82.2、全道：97.9、全国：95.1 R 3 …本校 74.8、全道：90.1、全国：90.7
 R 4 …本校 90.2、全道：98.1、全国：96.7

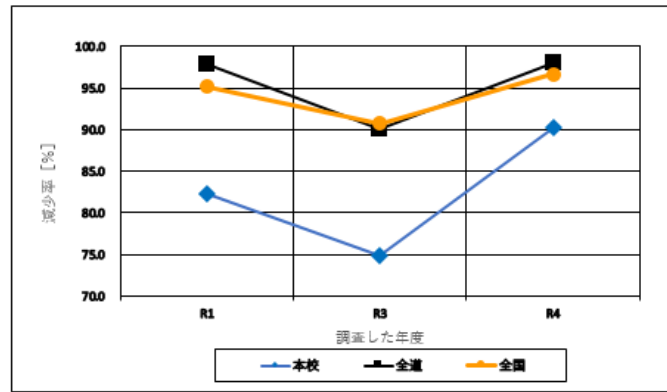
表3 同一集団における小学校6年次と中学校3年次の自己肯定感の変化

	R1					R3					R4				
	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2
① 本校	19.2	40.4	36.5	3.8	59.6	21.3	44.7	23.4	10.6	66.0	41.9	37.2	16.3	4.7	79.1
② 全道	29.7	43.7	19.1	7.6	73.4	33.8	40.7	17.8	7.8	74.5	36.2	41.2	15.6	7.1	77.4
③ 全国	29.0	45.1	18.6	7.3	74.1	34.5	41.7	16.6	7.1	76.2	36.0	42.5	14.9	6.6	78.5
④ 全道差	-10.5	-3.3	17.4	-3.8	-13.8	-12.5	4.0	5.6	2.8	-8.5	5.7	-4.0	0.7	-2.4	1.7
⑤ 全国差	-9.8	-4.7	17.9	-3.5	-14.5	-13.2	3.0	6.8	3.5	-10.2	5.9	-5.3	1.4	-1.9	0.6

中学校 82.2	中学校 74.8	中学校 90.2
減少率 全道 97.9	減少率 全道 90.1	減少率 全道 98.1
全国 95.1	全国 90.7	全国 96.7

	H29					H30					R1				
	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2	1	2	3	4	1+2
① 小学校	32.8	39.7	13.8	13.8	72.5	17.6	70.6	11.8	0.0	88.2	30.6	57.1	12.2	0.0	87.7
② 全道	36.0	39.0	16.6	8.5	75.0	38.7	44.0	12.5	4.6	82.7	35.6	43.3	14.9	6.1	78.9
③ 全国	38.6	39.3	14.9	7.0	77.9	41.2	42.8	11.6	4.3	84.0	38.8	42.4	13.4	5.3	81.2
④ 全道差	-3.2	0.7	-2.8	5.3	-2.5	-21.1	26.6	-0.7	-4.6	5.5	-5.0	13.8	-2.7	-6.1	8.8
⑤ 全国差	-5.8	0.4	-1.1	6.8	-5.4	-23.6	27.8	0.2	-4.3	4.2	-8.2	14.7	-1.2	-5.3	6.5

図3 小6から中3になったときの自己肯定感の減少率



(2) 考察

- 本校生徒の自己肯定感の高さは年度によって変動が見られ、全道・全国と同等の年もあれば、大きく下回る年もある。しかし、全国・全道を大きく上回る年はない。
- 一方、蘭北小学校の児童の自己肯定感の変動が少なく、全道・全国と同等程度である。
- また、全道・全国の傾向と同様に本校でも小学校6年次での自己肯定感の高さは、中学校3年次には減少する傾向にあった。しかし、本校の減少率は大きい。
- これらのことより本校の教育活動は、小学校で育まれた自己肯定感を大きく低下させている現状が浮き彫りとなった。したがって、本校の教育活動全体を通し、生徒の自己肯定感を高める取組を進める必要がある。
- 自己肯定感を高める取組としては、これまで体育大会や学校祭等の行事、生徒会活動、部活動において、生徒の活躍の場を意図的に設け、生徒同士や教職員に認められる機会をつくることに力を注いでいた。
- 本校生徒の自己肯定感を高めるには、これまでのような行事等の特別な機会だけではなく、日常的に行われる授業の中において、自己肯定感を高める仕組みを設けることが必要である。
- 自己肯定感を高める授業づくりを実施している他校の先行例を参考に、本校の現状に合わせた取組を形成していく必要がある。
- 小学校との連携を強化し、小学校段階での高い自己肯定感がどのように育まれているのかを分析し、中学校での減少の原因を探り、改善策を見つける必要がある。
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した授業改善と生徒指導の三機能を授業に取り入れる研究を深めていく必要がある。

5 研究実践

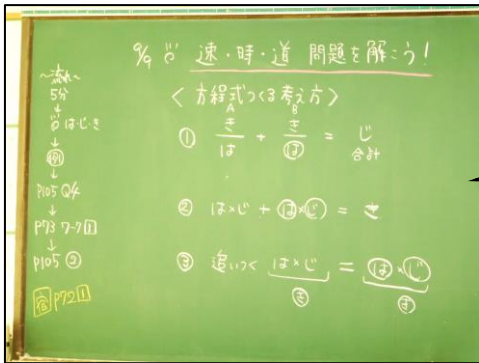
(1) 実践について

下の3つの研究内容について各教科における毎日の授業や校内研究授業で実践を重ねた。

- ・ 研究内容①：『「主体的・対話的で深い学び」を中心とした授業改善に取り組むことで、自己肯定感の高い生徒が育つだろう。』
- ・ 研究内容②：『生徒指導の三機能を生かすために授業展開や授業形態の工夫を行い、生徒の自己肯定感の向上を図る。』
- ・ 研究内容③：『「個別最適な学び」と「協働的な学び」をバランス良く実施することで、自己肯定感の高い生徒が育つだろう。』

(2) 各教科での実践

① 数学：高橋教諭による実践例



【主体的な学び】
 ○毎時間、授業のはじめに課題を提示することにより、生徒が目的意識をもち、授業に主体的に取り組むことができた。
 ○毎時間、授業のはじめに授業展開を提示することにより、生徒が見通しをもち、学習活動に主体的に参加することができた。

<自己決定の場>
 既習事項を提示することにより、考え方の手順を整理させることで、生徒が判断に困った場合の思考方法を選択することができた。

② 社会：斗澤教諭による実践例



【深い学び】
<自己決定の場>
 複数の資料をわかりやすく提示することにより、課題について多様な視点をもたせることで、生徒が自分の考えを形成することができた。

③ 国語：西舘教諭・中野教諭による実践例



【深い学び】 <自己存在感>
 題材について調べるにより、具体的なイメージを膨らませることで、授業内容を自分事として捉えることができた。

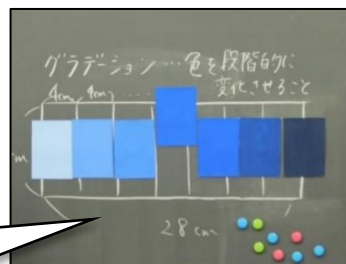
④ 音楽・美術：川原教諭による実践例



<自己存在感>
 パートごとに練習を行うことにより、担当するパートについて責任をもたせることで、自分の役割の大切さを楽しみながら味わうことができた。

【対話的な学び】
 曲の選定や合唱内容の改善について話し合わせるにより、生徒が互いの考えを交流し、共に課題を解決する体験をすることができた。

<自己決定の場>
 学習の手順や完成した状態を理解させることにより、生徒が自分の作品の進捗状況や評価を自分自身で確認し、自分で作業をコントロールしながら取り組むことができた。



⑤ 英語：傳法教諭、高階教諭による実践例



【主体的な学び】
身近な人やものごとを題材として用いることにより、課題に対する抵抗感を減らし、学習に意欲的に参加することができた。



【主体的な学び】
教具や課題の提示方法を工夫することにより、生徒一人一人に合った学びを実現し、生徒が習熟度を上げることができた。

<自己存在感>
修学旅行の発表会や調べ学習に取り組むことにより、生徒が自分の考えや興味を表現し、自分自身について客観的に捉えることができた。

⑥ 特別支援教育の実践例



⑦ 理科：阿部教諭、鈴木教諭による実践例



【主体的な学び】 <自己決定の場>
単元を通して本物に触れる体験や自分で採取した生物を題材とすることで、主体的な学びの実現と自己決定の機会を設けることができた。

<共感的人間関係>
課題に対して班で調べ学習に取り組むことにより、生徒が協働的に学習を進めることができた。

⑧ 体育：山本教諭による実践例



【協働的な学び】 <共感的人間関係>
受け身の技能を高めるために、ICTを用いて互いの受け身を撮影し、良い点・改善点を助言し合うことにより、協働的な学びの実現と共感的な人間関係の形成を図った。

6 課題と今後の取組

- 「主体的・対話的で深い学び」を目指した授業改善の取組と「生徒指導の三機能」を取り入れた授業改善には重複する点が多くあるため、観点を重点化するなど整理が必要である。
- 自己肯定感に関する知識や自己肯定感を高める方法について理解を深める必要がある。
- 本校の実態に即した自己肯定感を高める取組方法を見つけ、授業を行う上での指針やセルフチェックシートを作成することで実践しやすい環境を整える必要がある。
- 自己肯定感と学力関係や学校評価の項目について分析を実施する。
- 小学校と連携し、義務教育段階の9年間を見通した自己肯定感を高める取組を見出していく。